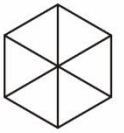


富岡製糸場総合研究センターだより

No. 5

(2021年7月発行)



富岡製糸場をもっと楽しむための豆知識をお届けします！

「上州座繰り器」と「フランス式繰糸器」

絹は、5～6千年前の中国が発祥とされており、その後世界中に広まってきました。

シルクロードの東の終着点とも言われる日本では、弥生時代には既に絹の製法が伝来していたと考えられています。さらに、江戸時代には独自の「座繰り器」と呼ばれる手回しの製糸器具が普及していきました。

一方、シルクロードの西の終着点とされる欧州諸国では産業革命後に「器械製糸」が発展していきます。器械製糸では、手回しの製糸に比べて能率向上と品質安定が見込めました。

1872（明治5）年に設立された富岡製糸場の目的のひとつは、当時の海外の生糸需要に応えるため、それまでの日本で一般的ではなかった「器械製糸」の模範を国内に示すことでした。その際に欧州から輸入した器械が「フランス式繰糸器」です。

現在、富岡製糸場の繰糸所には「上州座繰り器」と「フランス式繰糸器」の写真資料が展示されています。これらを見比べると、当時の日本と欧州の製糸技術の違いを観察することができます。

◆ 発行 ◆

富岡市世界遺産観光部 富岡製糸場総合研究センター

